

【事業実績】

(1) ワークショップ・講演会ほか（上越）

11月13日、高田盲学校という個別の課題を拡大し、「障害（者）」に対する多角的な理解を図るべく、身体障害者補助犬に視点を定めて「介助犬のひろば in 上越」を開催した。盲導犬や介助犬のデモンストレーションのほか、聴導犬ユーザーの安藤美紀さん・一成さんの講演を実施。当該イベントの中でその中高田盲学校資料の紹介も行い、その周知を図るとともに「障害（者）」に関して様々な知見を提供することができた。



介助犬デモンストレーション



安藤美紀さんの講演

※参加者の反応・感想（抜粋）

- ・障害者の方々の苦勞や介助犬などの役割がよく理解できました（40代女性）
- ・大変貴重な資料を拝見させていただきました（60代男性）

(2) ワークショップ（京都）

京都府立聾学校において、中等部・高等部の教員・生徒を対象として、ワークショップを実施した。学校所蔵資料で対話型鑑賞を行い、その上で写真等二次資料を活用してミニ展示を作成。活用の方策を考えることで、文化財の価値に気づくとともに文化財に対する意識を高める授業となった。

- ・12月14日 ワークショップ（教員向け）
- ・2月20日 ワークショップ（生徒向け）



12月14日（教員向け）



2月20日（生徒向け）

※参加者の反応・感想（抜粋）

- ・作品の見方が変わってきて、今後の教育にも活かせるものと思いました（教員）
- ・自分で展示を考えて作ってみるのが面白かった（生徒）

(3) ワークショップ（その他）

科学ヘジャンプ2023（東京）に参加し、盲学校の生徒に対する触察ワークショップを実施。盲聾教育でモノに如何に光を灯すかを考える機会を得た（12月4日）。また、大阪府大東市における「補助犬のひろば」において点字体験ワークショップに参加協力し、さまざまな対象や当該ワークショップの可能性（及び課題）について検討する機会を得た（2月19日）。

(4) 資料調査・写真撮影

各所蔵先の資料調査とともに、その資料集作成はもとより今後さまざまな場面での使用に耐え得るべく、以下のとおり資料の写真撮影を行った。

- ①上越市立歴史博物館とともに旧高田盲学校の資料の調査を行った（11月14日）。
- ②京都府立聾学校の資料室の資料調査及び写真撮影を行った（1月16日ほか）。
- ③太陽の家所蔵資料の資料調査及び写真撮影を行った（11月21日ほか）。
- ④川村義肢株式会社歴史資料室所蔵の資料調査及び写真撮影を行った（2月24日ほか）。



太陽の家（11月21日）



京都府立聾学校（1月17日）

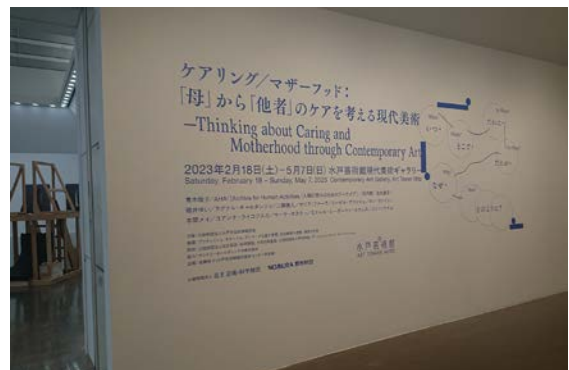
(5) 国内調査

国内のさまざまな関連資料の所在を確認するとともに、この事業の活動をどのように発信していくかその参考とすべく、「障害（者）」のみならずいわゆる「マイノリティ」や「ケア」などをキーワードに展示として何をどう見せているのかについて、国内のさまざまな展示事例に学んだ（さまざまな視点を活かす方策を考える材料を求めた）。

- ・能登川博物館における作業療法士についての展示
- ・原爆の図丸木美術館「趙根在写真展 地底の闇、地上の光 — 炭鉱、朝鮮人、ハンセン病 —」展
- ・東京都人権プラザ「いっしょに生きる—身体障害者補助犬法成立から20年」
- ・水戸芸術館「ケアリング/マザーフード：『母』から『他者』のケアを考える現代美術」ほか



東京都人権プラザ



水戸芸術館

(6) 資料集（パンフレット）の発行

「障害」「障害者」に関するモノやヒトへの理解を図るべく、当事業に関わる資料集を発行した。テーマを「京都盲啞院」「高田盲学校」「義肢装具」「太陽の家とパラリンピック」の4本立てとし、それぞれ写真と解説で構成した。

